

# 2022年度 日本学教育研究センター(CJS) 事業報告書



国立大学法人  
和歌山大学

<表紙デザイン協力>  
齊藤彩花（観光学部）

## 目 次

<b>【1 基幹事業概要】</b>	
（1）海外大学との交流締結状況	6
（2）交換留学 受入状況	8
（3）交換留学 派遣状況	8
（4）日本語・日本文化研修留学生（日研生） 受入状況	8
（5）その他学生 受入状況	9
（6）その他学生 派遣状況	9
（7）協定調印式	9
（8）来訪者（海外協定大学等）	10
<b>【2 日本語・日本文化教育関連事業報告】</b>	
（1）教育関連事業の概要	13
（2）プログラム	13
<日本語科目>	
<日本語・日本文化関連科目>	
<日本語関連科目>	
<日本語教育関連科目>	
（3）イベント	17
<第14回作文コンクール>	
<第20回学長杯 留学生によるスピーチコンテスト>	
<日本語日本文化研究発表会>	
<電子書籍「マイの和歌山大学留学2022」>	
<シンポジウム「～地域の力を活かそう～外国につながる子どもへの支援」>	
（4）全体まとめ	22
<b>【3 国際教育・交流事業】</b>	
（1）オンライン・サマープログラムの実施	24
（2）第10回タイ・プログラム	25
（3）オンラインによる国際協働学習(COIL)型教育の実施	26
◆教養科目「異文化コミュニケーション共同演習」	
◆教養科目「国際協力オンライン演習」	
（4）多言語サロン	28
（5）留学生地域交流（派遣・受入）	30
（6）見学旅行	32
（7）和歌山県内企業との出会いの場	32
（8）JICA 地域理解プログラム	
（9）駐日ナミビア大使特別講演	33
（10）留学説明会（浙江師範大学）	34
（11）国際同窓ネットワーク	34
日本学教育研究センター年間事業実績一覧	36
日本学教育研究センタースタッフ一覧	38



## 【 1 基幹事業概要】

## (1) 交流協定締結状況

2022年度は、新たに下記10大学と交流協定および学生交流協定を締結しました。

国名	大学名	交流協定	学生交流	締結日
タイ王国	テープサトリ・ラチャパット大学	○	○	2022年5月6日
セルビア共和国	クラグイエヴァツ大学	○		2022年7月19日
ボスニア・ヘルツェゴビナ	東サラエボ大学	○		2022年9月14日
ウズベキスタン共和国	東洋学大学	○		2022年10月17日
大韓民国	公州大学	○	○	2022年11月14日
ベトナム社会主義共和国	ドンア大学	○	○	2023年2月13日
	ベトナム外交学院大学	○		2023年2月14日
	ハノイ貿易大学	○*	○	2023年2月14日
	ハノイ大学	○	○	2023年2月15日
	フェニカ大学	○		2023年2月15日

\*2022年3月17日締結

2023年度末（2023年3月31日現在）において、下記の大学と協定を締結しています。

	国名	大学名
1	大韓民国	慶北大学校
2		公州大学
3	ベトナム社会主義共和国	ホーチミン市師範大学
4		ハノイ国家教育大学
5		ダナン工科大学
6		ドンア大学
7		ベトナム外交学院大学
8		ハノイ貿易大学
9		ハノイ大学
10		フェニカ大学
11	中華人民共和国	浙江師範大学
12		山東師範大学
13		山東大学
14		吉林大学
15		東北財経大学
16		首都師範大学
17		華東師範大学体育健康学部

18		山東財経大学
19		東北大学
20		西安交通大学
21		鄭州大学
22		福建師範大学
23	フランス共和国	トロワ工科大学
24		コンピエーニュ工科大学
25		ベルフォール・モンベリヤール工科大学
26		パリ大学
27		オーデンシア・ビジネススクール
28	スペイン王国	サラゴッサ大学
29		サンディアゴ・デ・コンポステーラ大学
30	アメリカ合衆国	西フロリダ大学
31		ウイスコンシン大学 ミルウォーキー校
32		ブリッジウォーター州立大学
33	グアテマラ共和国	サンカルロス大学
34	オーストラリア連邦	カーティン大学 カーティン・ビジネス・スクール カーティン言語・異文化教育スクール
35		デイキン大学
36	タイ王国	カセサート大学
37		テープサトリ・ラチャパット大学
38	インドネシア共和国	ガジャマダ大学
39		ビナ・ヌサンタラ（ビヌス）大学
40	ラオス人民民主共和国	ラオス国立大学
41	フィリピン共和国	フィリピン国立大学
42	英国	セントラル・ランカシャー大学
43	カザフスタン共和国	カザフ国際関係外国語大学
44	ブラジル連邦共和国	グランデ・ドラードス大学
45	クロアチア共和国	オシエク大学
46	ウズベキスタン共和国	ブハラ国立大学
47		ウズベキスタン国立世界言語大学
48		タシケント国立経済大学
49		タシケント建築土木大学

50		ウズベキスタン世界経済外交大学
51		シルクロード国際観光大学
52		シンガポール経営開発研究所タシケント校
53		東洋学大学
54	ロシア連邦	ペルミ国立大学
55	セルビア	クラグイエヴァツ大学
56	ボスニア・ヘルツェゴビナ	東サラエボ大学

(2) 交換留学 受入状況

	大学名	受入人数
ベトナム	ホーチミン市師範大学	2
中国	山東師範大学	1
中国	福建師範大学	3
中国	鄭州大学校	14
中国	山東大学	1
韓国	慶北大学校	2
フランス	オーデンシア・ビジネススクール	1
フランス	パリ大学	2

(3) 交換留学 派遣状況

国	大学名	派遣人数
アメリカ	ブリッジウォーター州立大学	1
オーストラリア	カーティン大学	1
イギリス	セントラル・ランカシャー大学	1

(4) 日本語・日本文化研修留学生 受入状況

国	大学名	受け入れ人数
ベトナム	ホーチミン市師範大学	1
ウズベキスタン	ウズベキスタン国立世界言語大学	1
中国	浙江師範大学	1
インドネシア	ビナ・ヌサントラ大学	1
インド	ティラク マハラシュトラ ウィディヤ ピース大学	2
スリランカ	ケラニヤ大学	1
ブラジル	ブラジリア大学	1
トルコ	アンカラ大学	1

## (5) その他学生 受入状況

2022年度は受入実績なし。

## (6) その他学生 派遣状況

派遣先	プロジェクト名称等	期間	派遣人数
タイ王国	タイ・プログラム	2023. 2. 15～2. 26	16
ベトナム社会主義共和国	ベトナム・プログラム	2023. 2. 18～2. 22	8

## (7) 協定調印式

大学名	会場	実施日	協定内容		
			包括	交流	学生
東サラエボ大学	和歌山大学	2022年7月1日	-	○	-
公州大学	和歌山大学	2022年11月3日	-	○	○
ドンア大学	ドンア大学	2023年2月13日	-	○	○
ベトナム外交学院大学	ベトナム外交学院大学	2023年2月14日	-	○	-
ハノイ貿易大学	ハノイ貿易大学	2023年2月14日	-	-	○
ハノイ大学	ハノイ大学	2023年2月15日	-	○	○
フェニカ大学	フェニカ大学	2023年2月15日	-	○	-
JETRO	和歌山大学	2023年2月21日	○	-	-

### ①日本貿易振興機構（JETRO）との包括連携の協定書締結式（2023年2月21日）

日本貿易振興機構（JETRO）の信谷和重副理事長と伊東千尋学長が「包括的な連携推進に関する協定書締結式」を行いました。これまで、ジェトロ和歌山を通じて和歌山大学や県内周辺の留学生が県内企業のことを学ぶイベントや交流会を実施してきました。また国際経済の研究者を招いて研究や事業活動報告会を開催してきました。今後は和歌山大学で学ぶ留学生が和歌山企業について学ぶ事業を継続するとともに、学術研究面、人材教育面又は産官学連携面での国際的な展開が期待されています。



## (8) 来訪者

2022年 6月 2日	JETRO 信谷副理事 JETRO と共催し留学生を対象とした「就職説明会を本学にて開催
2022年 7月 1日	駐日ボスニア・ヘルツェゴビナ大使来学 東サラエボ大学との包括協定調印
2022年 7月 7日	駐日ナミビア大使
2022年 11月 14日	韓国公州大学との包括協定調印式
2023年 1月 18日	在大阪スイス領事館領事
2023年 1月 26日	在名古屋トルコ総領事来学
2023年 2月 1日	東サラエボ大学電気工学部学部長来学
2023年 2月 21日	JETRO 包括協定締結
2023年 3月 27日	アラバエフ・キルギス国立大学総長

### ①東サラエボ大学電気工学部長一行による表敬訪問

令和5年2月1日(水)、東サラエボ大学(ボスニア・ヘルツェゴビナ)のBozidar POPOVIC 東サラエボ大学電気工学部長、Srdjan LALE 東サラエボ大学電気工学部副学部長、シニジャ・ベリヤン駐日ボスニア・ヘルツェゴビナ大使が伊東学長を表敬訪問され、伊東学長、足立副学長、野村システム工学部長、長友日本学教育研究センター長、藤山日本学教育研究センター副センター長、東国際観光学教育研究センター副センター長との懇談を行いました。

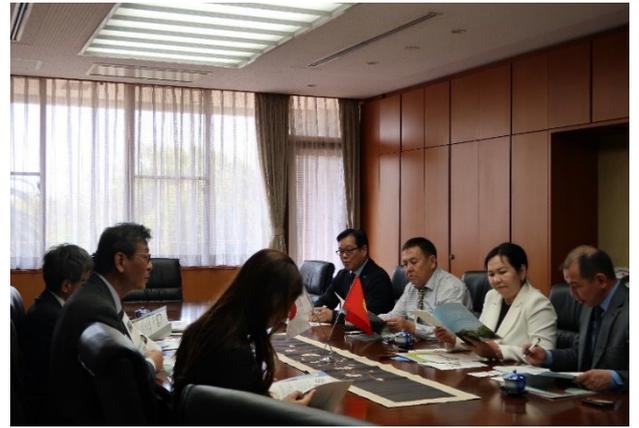
また、システム工学部の研究室視察も行われ、今後の研究者や学生交流についても協議され、両大学間のさらなる学術・教育交流の進展の可能性について意見が交わされました。



### ②アラバエフ・キルギス国立大学による表敬訪問 (2023年3月27日)

アラバエフ・キルギス国立大学学長 Abdraeva AIGUL 氏、アラバエフ・キルギス国立大学付属日本学院学長 Samarov AIBEK 氏らが伊東学長を表敬訪問されました。

Abdraeva AIGUL 氏はアラバエフ・キルギス国立大学日本語学院では日本語を習得し日本で就職することを目指していると説明され、学生交流にも興味を示されました。本学も学生交流を通じて協力関係を築いていき両大学のさらなる学術、教育交流の可能性について懇談されました。



### (9) その他

2022年 9月 28日～29日 日本・ウズベキスタン学長会議出席

2022年 11月 6日 JICA 研修生受け入れ

## 【 2 日本語・日本文化教育関連報告】

# 2022 年度日本語・日本文化教育関連事業報告

## Japanese Language and Japanese Culture Education (2022)

日本学教育センター 教授 長友 文子  
Ayako NAGATOMO  
特任助教 松下 恵子  
Keiko MATUSHITA

### (1) 2022 年度教育関連事業の概要

2019 年暮れから始まった COVID19 パンデミックも 3 年目を迎え、2022 年度にはようやく落ち着きを取り戻しました。

コロナ下で実施されたオンライン授業にも、自宅あるいは海外でも授業が受けられるといったメリットもありましたが、しかし基本的には、対面授業ができなかったり、キャンパスが閉鎖されたりしたことは、全ての学生にとって学習上、また学生生活上の大きな枷となっていました。さらに、留学生にとっては、日本の文化や社会を体験学習する貴重な機会が失われるという、大きな制約が課せられました。

2022 年度になっても、社会的な行動規制の完全撤廃にはなりませんでしたが、以前に比べるとかなり緩められ、大学でも対面授業が復活して、キャンパスに学生たちの姿が戻ってきました。出入国制限で来日できずに減少していた留学生たちも、2022 年 5 月末には 144 名。10 月末には 169 名と、元の人数に戻りつつあります。留学生の、学外実習を含めた文化体験も、実施できるようになりました。

2021 年度に改組された日本学教育研究センターでは、2023 年度から副専攻制をスタートさせることとなり、新たに日本語、日本文化担当の教員を迎えてスタッフを充実させました。2023 年度には、カリキュラムが改革され、日本人学生との共修を含め、開設科目がより拡充されることになっています。

2022 年度の日本語・日本文化教育関連事業を、「プログラム」と「イベント」に分けて報告します。

### (2) プログラム

#### <日本語科目>

留学生の日本語教育科目として、以下の科目を開講しました。昨年までオンラインだった授業は、対面授業またはハイブリッド授業となりました。レベルによるクラス分けについては、例年通り、プレースメントテストと昨年までの受講レベルにより振り分け、それぞれのニーズとレディネスに合った授業を行いました。

- ◎ 「日本語中級 A」「日本語中級 B」「日本語中級 C」「日本語中級 D」「日本語中級 K」  
「日本語中級 L」「日本語中級 M」「日本語中級 N」
- ◎ 「日本語上級 A」「日本語上級 B」「日本語上級 C」「日本語上級 D」「日本語上級 K」  
「日本語上級 L」「日本語上級 M」「日本語上級 N」

コロナの影響は、次第に解消しつつありますが、交換留学生の来日数はコロナ前にはまだ戻ら

ず、初級クラスの開講は、2023年度まで延期されました。

「日本語」と「日本事情」科目は、もともと、日本語科目を含む留学生入学試験に合格した正規学部留学生の必修科目として開設されました。しかし近年、正規学部留学生以外に、海外協定大学からの交換留学生、日本語日本文化研修留学生、大学院留学生、学部や院の研究生、などが増え、日本語科目を履修す留学生の学習ニーズとレベルが大変多様化してきています。

同じ語学でも、英語は全員が入試合格者レベルであり、第二外国語は全員が同じ初心者ですが、日本語科目の履修希望者は、ニーズやレベルが大変多様ですし、履修できる曜日も一致しません。日本語教員の数が限られた現状では、多様なニーズとレベルの留学生たちに、それぞれの実情にあった、きめ細かな対応をしてゆくのは大変難しいのですが、現状で最大限努力しています。今後ますます留学生の増加と多様化が予想される中で、多様な日本語学習ニーズとレベルに、どのように対応してゆくかが課題となっています。

#### <日本語・日本文化関連科目>

日本語の習得には、語学としての日本語学習だけでなく、日本語の背景となっている日本の文化と社会を知ることが不可欠です。また近年、留学生には、日本文化への強い関心があります。日本語日本文化研修留学生を中心とする、日本語日本文化の学習ニーズに応じて、次のような科目を開いています。

##### ◎「日本語日本文化研究 A・K」

この科目は、日本語日本文化研修留学生が、各自でテーマを決めて、1年間かけて研究し、日本語日本文化研修生の修了レポートを作成する科目です。研究成果は、公開の日研修了レポート発表会で発表します。コロナのために、前年度の発表会は、ウズベキスタン、スリランカの大学の先生や学生も参加したオンラインだけの発表会となりましたが、2022年度は、以前のような公開発表会を復活開催して、学外の方々にも参加して頂く一方、ハイブリッド方式で、学外の方々にもオンラインで参加いただきました。(詳しい内容は、後の「イベント」を見てください)。

##### ◎「日本事情」

この科目は、かつては正規留学生用必修の「日本語」とセットになった科目でしたが、その後、カリキュラム変更による履修生の多様化を受けて、例年「和歌祭」の歴史を学びながら実際に祭りに参加する体験学習を組み込んでいます。2021年は、コロナにより和歌祭そのものが開催されませんでした。2022年度には、再び祭りが開催され、伝統芸能についての座学と地域の方々の指導による祭りの練習を行った上で、和歌祭に参加し、貴重な文化体験ができました。

また、後半では、「柔道」、「着物の歴史と着付け」、「落語と三味線」、「日本食から見た日本・日本人」、というテーマについて、それぞれ専門家をゲストスピーカーとしてお招きして、講義と体験実習をしてもらいました。授業には、ウズベキスタン世界言語大学からも、教員と学生がオンラインで参加しました。実際に自分で体験学習した履修学生たちはもちろんですが、柔道や着付けや落語などの実演を見ることができたウズベキスタン世界言語大学の学生たちもよい体験だったようで、同大学の先生方から、今回取り上げたような日本文化についての講義と実演は、大変有意義だったというコメントがありました。

##### ◎「日本文化入門 A・K」

この科目は、交換留学生、日本語日本文化研修留学生を対象とし、日本の伝統文化を理解する科目で、前期と後期に開講しています。2021年度後期より対面授業も可能となり、2022年度は「か

な書道」「ハラル和食調理実習」などの文化体験授業を行いました。また、茶道部のメンバーや地元職人の方々に協力してもらい、「茶道体験」「ミニ畳づくりワークショップ」「和菓子作り体験」を実施しました。茶道部の方々や、畳職人の山本さん、和菓子職人の須賀さんとの交流を通して日本文化についてさらに深く学ぶことができました。



#### <日本語関連科目>

基礎語学を学ぶ<日本語科目>の他に、多様な日本語ニーズに応じて、2022年度には、次のような科目を開講しました。

◎「日本文化と入門ビジネスジャパニーズ A・K」

これは、将来、日本企業などに就職する留学生向けのキャリア教育科目です。

◎「留学生のためのアカデミック・プレゼンテーション」

「留学生のためのアカデミック・ライティング」

これらは、昨年度新規に開設した科目で、大学生として必要な、授業でのレポート作成や研究成果の発表に必要な、アカデミックな日本語スキルを身につけるための科目です。

## <日本語教育関連科目>

近年、協定大学からの交換留学生の中には、本国で日本語を専攻し、将来日本語教員を志望する留学生が少なくありません。日本人学生の中にも、日本語教員を志望する学生もいます。それらの日本語教育、日本語教授法についてのニーズに応じて、次の科目を開講しました。

### ◎「外国語としての日本語を学ぶ」

日本人学生との共修を生かして、将来日本語の教師になりたいという学生のために、「外国語として」日本語を見直し研究する科目です。

### ◎「日本語教育演習 A・B」：「第3回オンライン日本語会話クラブ」

「日本語教育演習 A・B」は、日本語教育について学びながら日本語学習者の気持ちを理解し、模擬授業を通じて「日本語を教える」とはどういうことを学ぶという教養科目です。この授業の特徴は、受講生が教師役と学生役の両方を体験することです。受講生は初めて学ぶ日本語教育や日本語教授法に興味津々で工夫を凝らした模擬授業を行っていました。

また、2022年度後期「日本語教育演習 B」の中で「第3回オンライン日本語会話クラブ」を実施しました。「オンライン日本語会話クラブ」は、2021年に開始したオンライン交流イベントで、ブルネイ・ダルサラーム大学（ブルネイ）やバリアブントウ大学（ベトナム）で日本語を学ぶ学習者と和歌山大学留学生との交流を目的に行ってきました。第3回目を2022年11月17日に「日本語教育演習 B」の授業で行いました。履修生がファシリテーターとなり、活動内容を企画し、当日はグループに分かれて日本語で会話活動を行いました。履修生たちは、アイスブレイクのゲームを準備したり、ブルネイ大学の学生たちが話しやすい雰囲気づくりなど、ファシリテーターの役割を意識しながら活動に取り組んでいました。



### (3) イベント

本センターでは、プログラムとしての科目開設の他に、毎年いくつかのイベント事業を企画開催しています。

2022年度には開催した主なイベントは、次の通りです。

#### <第14回作文コンクール>

日本学教育研究センターでは、2022年5月9日(月)から6月24日(金)まで「留学生から見た和歌山・日本・母国」というテーマで作文募集を行いました。作文コンクールの趣旨は、「留学生が見た、感じた、体験した和歌山・和歌山大学」、「和歌山での留学生活から考えた日本語の社会」などを、母語と日本語で書き、世界に紹介しようというものです。第14回目を迎えた今回は、ベトナム、中国、モンゴル、スリランカ、ミャンマー、ウズベキスタン、トルコ、ウクライナ、ブラジルの9か国からの留学生12名の応募がありました。審査の結果は次の通りです。(「日研生」＝「日本語・日本文化研修留学生」)

#### ◎最優秀賞：

日研生(中国) 銭 琪佳「気軽に話し会おう！」

#### ◎優秀賞：

日研生(トルコ) ババダー セリム「和歌山で散歩」

日研生(ミャンマー) メイテュ ミョー アウン「和に留学してよかったこと」

#### ◎審査員賞：

交換留学生(中国) 金 安琪『「平家物語」との縁』

日研生(ウクライナ) パーダルカ オリハ「え？生魚食べられる？」

日研生(スリランカ) タヌシ アベセカラ「温かい和歌山」

#### ◎努力賞：

日研生(ベトナム) グエン タム ティ ホン「自分の中に存在する和歌山」

日研生(ブラジル) ゴンサルベス サントス ギレルメ「千の間違った言葉」

日研生(ウズベキスタン) エシュプラトフ フェルズ「また来てね」

経済学部3年(モンゴル) バトウルジー オユンダリ「2011年3月11日」

交換留学生(ベトナム) レ ミン トゥー「愛に満ちた和歌山」

交換留学生(ベトナム) チャン ティー スアン イー「和歌山大学-非常に貴重な贈り物」

最優秀賞に輝いた銭 琪佳さんの作文は、様々な国からの留学生が共通の目的をもって和歌山に来て出会ったことの不思議で貴重な体験を上手にまとめていました。また、優秀賞のババダー セリムさん、メイテュ ミョー アウンさん、審査員賞、特別賞、努力賞のみなさんの作文も、それぞれ、和歌山での体験などが上手に表現された素晴らしい作文でした。

応募者の作品は、日本学教育研究センターHP に掲載されています。(https://www.wakayama-u.ac.jp/cjs/data/sakubun/introduce14.html)



## <第20回 学長杯 留学生によるスピーチコンテスト>

第20回「学長杯、留学生によるスピーチコンテスト」は、3年ぶりに対面が可能となり、オンラインと併せて、ハイブリッドの開催となりました。今回も、和歌山県、和歌山市、(公財)和歌山県国際交流協会、NPO 法人WIN コンコード、国際ソロプチミスト和歌山紀ノ川、高野山大学、和歌山工業高等専門学校、和歌山 YMCA 国際福祉専門学校に後援していただきました。

今回、コンテストには、和歌山大学の他に、和歌山工業高等専門学校、高野山大学から、マレーシア、ブラジル、トルコ、中国、モンゴル、ウズベキスタン、カンボジア、ベトナム、8カ国の留学生、計15名が出場してくれました。

今回、入賞され、和歌山大学伊東学長から表彰状を授与されたのは、次の方々です。

◎学長杯：和歌山大学日研究生（中国）童 倩二「褒め言葉は惜しむものではない」

◎第二位：高野山大学留学生（中国）張 育瑄「日本語が上手な私」

◎第三位：和歌山大学日研究生（ウズベキスタン）フダイシュクロフ コムロンベック  
ドニヨロビッチュ「ダイエットする私」

◎特別賞：和歌山大学交換留学生（中国）金 安琪「自分の意外な一面」

和歌山大学交換留学生（中国）黄 書州「私にとって世界への鍵となる日本語」

◎WIXAS 賞：和歌山工業高等専門学校（モンゴル）トゥムルホヤグ ツェルムーン「海賊王」

以上の入賞者はもちろん、参加した留学生の方々は、いずれも、自分の思いを日本語で書き、それを覚え、そして当日、心を込めてスピーチしてくれました。今回のオンラインでのスピーチコンテストで頑張った経験は、よい思い出になるだけでなく、将来に続く大きな自信につながるでしょう。



## <日本語日本文化研究発表会>

先に触れましたが、「日本語日本文化研究」の授業では、日本語日本文化研修留学生が、言葉と文化について研究を行います。1年間かけて、テーマを選び、文献調査やアンケート調査、インタビューなどを行い、日本語日本文化研修留学生としての修了レポートを完成させます。

以前から、修了レポートの発表会は、学内外の方々に公開にして実施してきました。2020年度は、オンライン開催しかできませんでしたが、2021年度と同様、2022年も対面が可能となり、オンラインとあわせてハイブリッドで、発表会を行いました。特に、今回は、司会や受付、ポスター作成など、全てを学生たちで運営しました。準備も含めて大変慌ただしい研究発表会となりましたが、留学生たちにとっては、よい思い出となったことでしょう。

発表者とタイトルは、以下の通りです。

### ○エシュプラト フェルズ アブドゥナビ ウグリ (ウズベキスタン)

「ウズベク人がよく間違える「は」と「が」につ「いて」

### ○タヌシ アベセカラ (スリランカ)

「誘いを断るEメールにおける断りの前置き表現—日本人学生とシンハラ語を母語とする日本語学習者を対象に—」

### ○銭 琪佳 (中国)

『百人一首』に見られる秋の歌と『唐詩三百首』に見られる秋の詩との比較研究」

### ○メイテュミョーアウン (ミャンマー)

「日本語とミャンマー語における敬意表現の比較」

### ○パーダルカ オリハ (ウクライナ)

「マスコミで日常的にみられる用語—ウクライナに関する記事を中心に—」

### ○ゴンサルベス サントス ギレルメ (ブラジル)

「近代短編集小説「失はれた物語」における助数詞」

### ○ババダー セリム (トルコ)

『みんなの日本語』における副詞の比較調査」

### ○グエン ティ ホン タム (ベトナム)

「日本語の外来語増加」

内容は、研究成果の冊子にまとめています。



<電子書籍「マイの和歌山大学留学 2022」>

2021年10月から2023年2月にかけて電子書籍『マイの和歌山大学留学 2022』を制作しました。2013年度版の内容をリニューアルし、冊子版とPDF版、動画コンテンツ付きe-book版・issuu版の4種類を制作しました。このテキストの特徴は、新入留学生のためのキャンパス案内という場面設定に基づき、和歌山大学を紹介するという構成になっており、第1部「キャンパス案内」と第2部「和歌山の文化紹介」に分かれています。和歌山大学での学生生活や地域紹介に焦点をあてることで、和歌山大学や和歌山に興味を持ってもらえるような内容にしています。また、掲載している写真や動画コンテンツは、留学生に協力してもらい制作しました。6つの動画コンテンツは、和歌山大学の留学生と映像制作クリエ「filmage」メンバーとの共同制作で、内容企画・シナリオ・撮影・出演・編集をすべて学生が担当しました。このように学生と一緒にコンテンツを制作したことは、日本語教育の活動としても大変有意義でした。



**会話 ● 日本人学生との会話**

**梅:** マイさん、自己紹介、めっちゃ、よかったで。

**マ:** めっちゃ?

**梅:** 「めっちゃ」って、「とても」ってこと。

**マ:** ありがとうございます。日本語は、楽しいですね。

**梅:** 私は、とても、大変、ですけど、「めっちゃ」は初めて聞きました。

**マ:** そうなんですか。

**梅:** そうなんですか。

**梅:** あ、ごめん、「そうなん」は「そうなんですか」を聞く言っただ。

**マ:** なんだか、難しかった日本語とは違う言葉がたくさんあります。

フー、これから頑張ります!

留学生による案内video「友達」

**第5章 歓迎会**

**読み物 ● 自己紹介**

パーティでは、「乾杯」をした後、飲んだり食べたりします。乾杯をするまでは、飲んだり食べたりしてはいけません。そして、乾杯の前後にスピーチがあります。例えば、大学の歓迎会では、最初の挨拶があります。それから、みんなで飲んだり食べたりしながら、お話をします。途中で、自己紹介や、ゲームなどをして、最後にまた、団体の挨拶があり、会は終わります。留学生のみなさんは、いろんな場で、自己紹介をすることがたくさんありますので、ユーモアのまじった自己紹介ができるよう、準備しておくといでしょう。



### <シンポジウム「～地域の力を活かそう～ 外国につながる子どもへの支援」>

国内外で問題となっている「外国にルーツをもつ子どもの教育」についてのシンポジウムを、11月19日に、対面とオンラインによるハイブリッド方式で開催しました。これは、和歌山大学価値共創基幹（Kii-Plus）と日本学教育研究センタ（CJS）との連携事業で、基調講演、パネラー発表と討議が行われ、国内在住の外国人、研究者、関係者110名の熱心な参加がありました。

（参照 <https://www.wakayama-u.ac.jp/kii-plus/projects/foreignchildren/for2022.html>）



なお、その他、「和歌祭り参加」や「第3回オンライン日本語会話クラブ」などのイベントについては、それぞれ<プログラム>の科目のところに記載しました。

#### (4) 全体まとめ

以上、2022年度の教育幹事業について、＜プログラム＞としての開講科目と、年度内に行われた主なくイベント＞を紹介しました。2022年度は、2020年、2021年度のコロナの影響による留学生減と授業の制約を脱して、授業科目を正常化に戻した年度でした。

それに加えて、副専攻制のスタートに向けて、カリキュラムの再編作業と新しく開設される科目の準備作業に追われた1年でした。

2023年度からは、新しいカリキュラムの下で、日本人学生との共修科目を含めた開設科目が拡充されます。また、留学生の増加と多様化もさらに進むでしょう。日本学教育研究センターにとって、日本語・日本文化教育関連事業の充実化がますます重要になってゆきます。

## 【3 国際教育・交流事業】

## (1)オンライン・サマープログラムの実施(8月)

日本学教育研究センターにおいて初の試みとなる短期交流学生受入れとして、オンラインにてサマープログラムを8月1日～8月5日の間実施した。8か国12協定大学より100名を超える申込みがあり、「Tourism and Culture」、「Survival Japanese」、「Wakayama Historical and Culture」等の授業を中心に日本語・日本文化について学ぶプログラムであり、「Survival Japanese」のクラスでは、日本語教育演習Aを受講している本学生（日本人学生および留学生）に日本語講師サポート役として、日本語を教える実践的な機会を提供したことで、学内においても異なる価値観に触れ、日本に居ながらにして世界と交流できるまたとない機会となり、大好評を博したプログラムとなった。全日の様子を和歌山大学 YouTube チャンネルに掲載中。

YouTube チャンネル：

[https://www.youtube.com/watch?v=JGTB1PVqm04&list=PLSMf6AbDYtJtRfeCe\\_MiCzWzVgSTeqh.jz](https://www.youtube.com/watch?v=JGTB1PVqm04&list=PLSMf6AbDYtJtRfeCe_MiCzWzVgSTeqh.jz)

<プログラム・スケジュール>

# Summer Program 2022

## Course content:

TIME (JST, GMT +9)	MON AUGUST 1	TUE AUGUST 2	WED AUGUST 3	THU AUGUST 4	FRI AUGUST 5
3:00 pm- 4:00 pm	Opening Ceremony	Survival Japanese By Asst. Prof. MATSUSHITA Keiko	Survival Japanese By Asst. Prof. MATSUSHITA Keiko	Survival Japanese By Asst. Prof. MATSUSHITA Keiko	Survival Japanese By Asst. Prof. MATSUSHITA Keiko
4:10 pm- 5:10 pm	Tourism and Culture 1 By Dr. Joseph M. Cheer	Wakayama Historical and Culture By Dr. Ricardo Nicolas Progano	Life in Japan By Dr. Joseph M. Cheer, Dr. Ricardo Nicolas Progano, Dr. Husna Zainal Abidin	Cooking By Ms. JACOBSON Kumiko	Completion Ceremony



## (2)第 10 回タイ・プログラム(「海外体験演習(タイ)」)

日本学教育研究センター 藤山 一郎

日 時： 2023年2月15日～26日

場 所： タイ王国(チェンマイ、バンコク、アユタヤ、チョンブリー)

参加者： 1年生16名、4年生1名

「タイ・プログラム」は1回生のみが参加できる短期海外体験学習であり、いわゆるグローバル人材育成の起点として位置づけている。3年ぶりに10回目となる今回は16名の参加を得た。現地渡航は2月15日から26日までの11日間であるが、事前講義から事後講義も含めると約1年間にわたる長期のプログラムである。

本プログラムは多様な文化、歴史が交錯するタイに身を置いて他者を理解し、翻って自己を振り返ることを目標としている。タイ第2の都市チェンマイ郊外の学校、および首都バンコク郊外にある学校における交流活動および調査活動を実施した。参加学生は、後期セメスターから事前講義として、交流企画や調査内容など多様な課題について準備を重ねてきた。

なお、このプログラムは、カウンターパートとしてタイの教育 NGO「The Education for Development Forum(EDF)」と共同で開発をおこない、EDF スタッフが全日程にわたって同行した。同行中は参加学生と英語で様々な説明や日常会話をおこない交流を深めてきた。

日 程	内 容	地 域
1 日目	関西空港ーバンコク経由ーチェンマイ オリエンテーション	チェンマイ
2 日目	農村部小中学校訪問・文化交流 1 日目	チェンマイ
3 日目	農村部小中学校訪問・文化交流 2 日目	チェンマイ
4 日目	托鉢体験・お別れ会 象保護センター・寺院見学	チェンマイ
5 日目	チェンマイ郊外見学	チェンマイ
6 日目	チェンマイーバンコク移動 調査活動カ	バンコク
7 日目	アユタヤ移動 歴史遺産・寺院遺跡見学	バンコク
8 日目	カセサート大学附属学校マルチリンガルプロ グラム校訪問・文化交流 1 日目	チョンブリー
9 日目	カセサート大学附属学校マルチリンガルプロ グラム校訪問・文化交流 2 日目	チョンブリー
10 日目	お別れ会 フリーマーケット出店体験 (EDF 寄付)	バンコク
11 日目	バンコク市内 バンコク出発	機内泊
12 日目	関西空港着	

### <北部農村の学校での交流>



### <国立大学付属校での交流>



### (3)オンラインによる国際協働学習(COIL)型教育の実施

日本学教育研究センター 藤山 一郎

オンラインによる国際教育プログラムとして、昨年度から引き続き「異文化コミュニケーション共同演習」を通年（前期・後期）で開講するとともに、フィールドワークやPBLの要素を含めた「国際協力オンライン演習」を継続開講した（後期）。

#### ①教養科目「異文化コミュニケーション共同演習 A・B」

##### 【授業概要】

本授業は、本学の協定校であるビナ・ヌサントラ大学（以下、ビヌス大学）の人文学部日本語学科と合同で実施するオンライン国際協働学習(COIL)形式の授業である(授業内容はA・B共通)。

	履修者数	合同グループ数
前期(A)	和歌山大学： 7名 ビヌス大学： 9名	4チーム
後期(B)	和歌山大学： 16名 ビヌス大学： 12名	5チーム

共通テーマを、「SDGs からみた Before-After Pandemic の社会変化」とし、COVID-19の世界的感染拡大のなかで日本やインドネシアで発生している社会変化に焦点をあてることとした。双方の学生でグループを形成し、グループごとにSDGsの17分野から1分野を選択し、調査テーマを設定した。

授業はおおきく3期に区分し、第1期を調査課題・調査計画の決定、第2期を調査実施と分析、第3期を発表資料の作成として、授業では進捗報告、質疑応答、コメントをおこなった。なお、各グループの調査結果の一部は、ビヌス大学が主催する国際研究集会で発表され、ペーパーが発行されている。

本授業は、2020年度後期から開講しており、2022年度も通年で開講する。ビヌス大学側の担当者との協議しながら引き続き、授業内容の改善をはかっていきたい。



写真1：授業（後期）時の模様



写真2：最終発表時の資料（後期）

## ②教養科目「国際協力オンライン演習」

### 【授業概要】

2回目となる本授業は、本学の協定校であるガジヤマダ大学（インドネシア）との合同による、COILとPBLを融合したオンライン授業である。インドネシアでは、住民参加型地域振興策として「観光村」政策が実施されている。今回、ジョグジャカルタ特別州に位置するひとつの観光村より提示された3つの課題（観光促進や生業の発展等）にもとづいて、両大学の履修者がグループに分かれた。本学履修者は7名、先方は12名である。

各グループは、観光村政策や当該観光村の基礎情報の共有、調査計画の立案、日本の事例調査、オンライン・フィールドワークの実施と成果分析などを通じて、調査提案資料を作成した。最後は、観光村住民を対象にオンラインによる合同成果発表会を開催した。フィールドワークおよび合同成果発表会は、ガジヤマダ大学の教員・学生が当該観光村を直接訪問し、本学とライブ中継形式で実施された。

合同成果発表会では、約20名の観光村関係者・住民が、3チームによる英語・インドネシア語を交えた成果発表を聞いた後、それぞれ質問や今後の継続的な協力のあり方についてコメントがある等活発な交流がおこなわれた。本プログラム内容は、渡航制限以前は、「インドネシア・プログラム(IP)」としてオンサイトで実施していたものであり、次年度では再開する予定である。



写真1：オンラインフィールドワークの様様



写真2：合同成果発表会の様様



写真3：発表資料の一部



写真4：発表会終了時の集合写真

## (4)多言語サロン

「多言語サロン」は国際交流・異文化理解を目的とした、本センター主催のプログラムです。留学生が講師となり、「言語クラス」と自国の文化や生活を紹介する「文化交流クラス」を毎年2回（前期・後期）開講しています。本学において、留学生同士、あるいは留学生と日本人学生の親睦を深める役割を担っています。

### ①「多言語サロン 2022 前期」実施概要

日 時：2022年5月10日（火）～7月22日（金）

開講クラス：

【言語クラス】英語・韓国語入門・韓国語初級・フランス語・中国語（各6～9回）

【文化交流サロン】ブラジル・ウクライナ・スリランカ・ミャンマー・トルコ・中国・ウズベキスタン・ベトナム・台湾

参加者延べ人数：250名

海外留学したい？  
身近なところにはチャンスがあります。  
学内留学しませんか？

## 多言語サロン

和歌山大学の留学生が講師になり、彼らの母語を教えてくれるクラスです。会話練習や交流しながら楽しく学べますので是非！参加してください。

実施期間：2022年5月10日（火）～7月22日（金）  
実施場所：東1号館1階 日本学教育研究センター交流ラウンジ  
※応募者多数の場合や新型コロナウイルス感染症の状況に応じて、実施場所は変更する場合がありますので、ご了承ください。

開講クラス：英語、中国語、韓国語、フランス語、文化交流サロン。  
※文化交流サロンは、留学生との交流を目的としたクラスです。  
10か国程度の留学生が順番に出身国・地域を紹介します。  
(国外予定：ブラジル、ウクライナ、スリランカ、ミャンマー、ベトナム、トルコ、中国等)  
申込方法：下記URLもしくは右記のQRコードからお申込みください。  
<https://forms.office.com/r/EtrpKHdqG>

令和4年度多言語サロンスケジュール						
	月 Mon	火 Tue	水 Wed	木 Thu	金 Fri	
1期						
2期		中国語 講座 (入門)	フランス語 初級		英語 初級 フランス語	
3期			中国語 中級 (初級)		留学中に 学んだ 文化	
4期				英語 中級		

※各期、入場は、前日18時以降、開場は、当日9時以降です。

見学可能！  
定員に追加  
してOK。

問合せ先：和歌山大学日本学教育研究センター 多言語サロン 担当：星  
TEL:073-457-7524 E-mail: kokusai@ml.wakayama-u.ac.jp

交流サロン開催スケジュール		
日付	出身国・地域	講師
5月13日	ブラジル	サントス君
5月20日	ウクライナ	オリハさん
5月27日	スリランカ	タヌンさん
6月3日	ミャンマー	メイテユさん
6月10日		休講
6月17日	トルコ	セリム君
6月24日	中国	銭さん
7月1日	ウズベキスタン	フェルズさん
7月8日	ベトナム	タムさん
7月15日	台湾	蔡さん



## ②「多言語サロン 2022 後期」実施概要

日 時：2022年11月14日（月）～12月22日（木）

開講クラス：

【言語クラス】英語・韓国語・フランス語・中国語（各6回）

【文化交流クラス】ブラジル・ベトナム・インド・トルコ・インドネシア・中国

参加者延べ人数：198名

講師は全員和歌山大学の留学生！  
世界各地の文化、生活、言語を  
楽しく学べます。  
気軽にご参加ください！

**2022**  
11-12

期間：11月14日（月）～12月22日（木）各クラス6回  
場所：西1号館1階会議室

お申込みはこちら  
<https://forms.office.com/r/E6M122p9Xk>

**INTERNATIONAL EXPERIENCES ON WU CAMPUS**

1限 9:10-10:40  
2限 10:50-12:20  
3限 13:10-14:40  
4限 14:50-16:20

イさんの韓国語  
ソレンヌさんのフランス語  
クリスティーナさんの英語  
劉さんの中国語

文化交流

今期の開講予定は、  
ブラジル・ベトナム・インド・トルコ  
インドネシア・中国（計6回）

和歌山大学 国際交流センター  
Wakayama University  
Center for Japanology Studies

【お問合せ】 日本学教育研究センター TEL 078-457-7524 hokusa@ml.wakayama-u.ac.jp 担当：真志

**2022 SCHEDULE**  
11-12

お申込みはこちら  
<https://forms.office.com/r/E6M122p9Xk>

言語クラス【各6回】

- 月曜4限 | クリスティーナさんの英語 開講日 11/24・11/21・11/28・12/5・12/12・12/19
- 火曜2限 | イさんの韓国語 開講日 11/15・11/22・11/29・12/6・12/13・12/20
- 木曜3限 | ソレンヌさんのフランス語 開講日 11/17・11/24・12/1・12/8・12/15・12/22
- 木曜4限 | 劉さんの中国語 開講日 11/17・11/24・12/1・12/8・12/15・12/22

木曜2限 文化交流クラス

11/17 ジュリアさんのブラジル ブラジルのリオデジャネイロで、ブラジルの音楽やダンスを学んだジュリアさん。ブラジルの文化や生活について、日本語で楽しく学びたいというジュリアさん。ブラジルの音楽やダンスを学んだジュリアさん。ブラジルの文化や生活について、日本語で楽しく学びたいというジュリアさん。	11/24 ティエンさんのベトナム ベトナム、この国は、ベトナムの首都ハノイで、ベトナムの文化や生活について、日本語で楽しく学びたいというティエンさん。ベトナムの文化や生活について、日本語で楽しく学びたいというティエンさん。	12/1 ルタさんのインド インド、この国は、インドの首都ニューデリーで、インドの文化や生活について、日本語で楽しく学びたいというルタさん。インドの文化や生活について、日本語で楽しく学びたいというルタさん。
12/8 メリサさんのトルコ トルコ、この国は、トルコの首都アンカラで、トルコの文化や生活について、日本語で楽しく学びたいというメリサさん。トルコの文化や生活について、日本語で楽しく学びたいというメリサさん。	12/15 セシリアさんのインドネシア インドネシア、この国は、インドネシアの首都ジャカルタで、インドネシアの文化や生活について、日本語で楽しく学びたいというセシリアさん。インドネシアの文化や生活について、日本語で楽しく学びたいというセシリアさん。	12/22 センニさんの中国 中国、この国は、中国の首都北京で、中国の文化や生活について、日本語で楽しく学びたいというセンニさん。中国の文化や生活について、日本語で楽しく学びたいというセンニさん。



## (5) 留学生地域交流(派遣・受入)

本学では、留学生と地域の方々との国際交流を推進するため、交流授業やイベントへの留学生の派遣および大学への来訪受入れを積極的に行っています。今年度は、県内の小中学校の授業や国際交流団体主催のイベントに留学生を派遣し、出身国・地域の紹介を行う等の活動を通して、地域交流・国際理解を深めました。

【来訪】大阪府立岬高等学校「グローバルパスポート」授業協力

実施日：2022年6月15日

参加留学生：7名（中国・ベトナム・スリランカ・ブラジル・ミャンマー・ウズベキスタン）

【派遣】本学附属中学校3年「英語プロジェクト学習」授業協力

実施日：2022年9月29日

参加留学生：3名（ミャンマー・ベトナム）

【来訪】和歌山キワニスクラブ寄付贈呈式に出席

実施日：2022年10月13日

参加留学生：5名（中国・韓国・フランス・ウズベキスタン）

【派遣】芦原小学校5年生「総合的な学習の時間（国際理解教育）」（そば打ち体験）

実施日：2022年11月28日

参加留学生：2名（インド・トルコ）

【派遣】和歌山信愛大学「第3回和信祭」国際ブースにて、出身国・地域の紹介

実施日：2022年12月4日

参加留学生：3名（ミャンマー・ブラジル・ウズベキスタン）

【派遣】県国際交流協会「紀州っ子アドベンチャーフェスタ2022」にて、出身国・地域の紹介  
わかやま「体験の風をおこそう」運動推進事業～世界の5大陸の国を知ろう～

実施日：2022年12月10日

参加留学生：2名（中国・台湾）

【来訪】芦原小学校5年生と交流（国紹介・かるた遊びなど）

実施日：2023年1月23日

参加留学生：2名（インド・トルコ）

※交流の直後に起こったトルコ・シリア大地震のあと、交流した小学生たちが「自分たちにできることは」とスーパーで募金活動を行い、和歌山市を通じて義援金を寄付したとの報告がありました。

【派遣】 県国際交流協会「グローバルセミナー」 見つけよう！ブラジルの中の「にっぽん」

～和歌山県人会の活動&ブラジルのお菓子作り体験～

実施日：2023年2月26日

参加留学生：1名（ブラジル）



大阪府立岬高等学校「グローバルパスポート」授業協力



芦原小学校5年生との交流



和歌山信愛大学「第3回和信祭」国際ブース



芦原小学校5年生「総合的な学習の時間（国際理解教育）」

## (6) 見学旅行(滋賀)

学外での就学イベントとして、見学旅行を実施しています。今年は滋賀県を訪問し他県の自然や歴史文化に触れ、見聞を広げると共に留学生同士や日本人学生と交流を深める機会を提供しました。

実施日：2022年11月26日(土)

訪問先：滋賀県大津市、近江八幡

参加者：44名



琵琶湖パレイにて



琵琶湖 Terrace でのランチタイム

## (7) 和歌山県内企業との出会いの場

卒業・修了後に日本での就職を検討している留学生を対象とした県内企業説明会を実施しました。

実施日：2022年6月2日(木) 13:10~16:00

実施場所：本学 図書館3階マルチルーム

主催：JETRO 和歌山

参加者：本学留学生及び他大学・専門学校の留学生 計33名



企業説明を聞く留学生達



各社の先輩社員とのフリートークタイム

## (8) JICA 地域理解プログラム

関西圏の大学の修士または博士課程に在籍している JICA 長期研修員を対象に、観光学部大浦教授のご協力の下、地域理解プログラムを実施しました。「和歌山県における農業遺産の現状と課題」をタイトルに、現地視察及び講義を行い、現地視察では有田川町にて棚田ふあむによる棚田保全活動についての紹介を受け、うちわ作り体験、あらぎ島の見学を行いました。別日で実施した講義では、大浦教授による講義「和歌山県の農業遺産システムの意義」をオンラインにて行い、JICA 長期研修員の方々は熱心に受講されていました。後日 JICA 関西より報告された事後アンケートでは、現地視察、オンライン講義ともに、JICA 長期研修員から非常に高い評価をいただきました。

実施日

現地視察：2022年11月6日（日）

講義：2022年11月22日（火）

参加者：JICA 長期研修員 現地視察 25名 講義 21名



## (9) 駐日ナミビア大使特別講演

駐日ナミビア特命全権大使が本学に来学され、伊東学長、足立副学長と懇談を行いました。懇談後、観光学部生を対象に特別講演を実施し、ナミビア共和国の文化や観光事情に加え、教育事情等についても講義され、ナミビア共和国という国への理解が深まりました。

実施日：2022年7月7日（木）

参加者：観光学部生及び特別聴講留学生 計 54名



学長室での懇談の様子



特別講演後、駐日ナミビア特命全権大使と学生

## (10) 留学説明会(浙江師範大学)

浙江師範大学で日本語を学ぶ学生を対象に留学説明会を Zoom 上で実施。留学制度や授業科目について説明した後、浙江師範大学から日本語・日本文化研修留学生として留学中の銭琪佳さんに体験談を話してもらうなど、本学への留学について理解を深めました。

実施日：2022年9月8日（木）14：00～14：30

参加者：浙江師範大学で日本語を学ぶ学生 計 38 名



## (11) 国際同窓ネットワーク(OB・OG ネットワーク)

2022年、本学留学経験者と留学生の親睦・連携を図り、留学生の資質の向上、及び大学の発展に寄与することを目的とし、「和歌山大学国際同窓ネットワーク」を発足しました。

本センターのインスタグラムアカウントを開設し、本学の国際交流に関わる情報発信を随時行うことで、OB・OG との持続的な交流を図っています。

### 【実施概要】

- 2022年8月 本センターのインスタグラムアカウントを開設
- 2022年9月 国際同窓ネットワークのオンライン登録を開始
- 2022年9月 留学生 OG によるオンライン留学説明会を実施（浙江師範大学）
- 2023年2月 国際同窓ネットワーク ベトナム支部発足  
ホーチミン市師範大学にて結成式を開催  
同ベトナムアンバサダーを任命
- 2023年3月 中国（南部）アンバサダーを任命（浙江師範大学）

### 【会員数】

- 外国人留学生 50 名
- 日本人学生 1 名
- (2023年3月31日時点)





2023年2月12日、本学訪問団（学長・センター長・センター職員3名）がベトナム・ホーチミン市師範大学を訪問、OB・OG（13名出席）と会合を行い、「国際同窓ネットワーク ベトナム支部」が発足しました。



## 【2022年度 日本学教育研究センター年間事業実績一覧】

No.	実施日・期間	イ ベ ン ト
1	4月1日	4月期新入留学生オリエンテーション
2	5月18日	交換留学派遣ガイダンス
3	5月19日	日本文化入門A（書道体験）
4	6月2日	JETRO 和歌山主催「企業との出会いの場」
5	6月2日、10日	日本文化入門A（ミニ畳制作ワークショップ、畳制作現場見学）
6	6月15日	大阪府立岬高等学校来訪交流
7	6月30日	日本文化入門A（茶道体験）
8	7月1日	東サラエボ大学との協定調印式
9	7月7日	駐日ナミビア大使特別講演会
10	7月13日	日本語教育演習A（日本語模擬授業）
11	7月14日	日本文化入門A（ハラル和食調理実習）
12	7月27日	「異文化コミュニケーション共同演習A」終了（ピナ・ヌサンタラ大学）
13	8月1日-5日	オンライン・サマープログラム（短期受入交流学生プログラム）
14	8月1日	作文コンクール表彰式
15	9月8日	浙江師範大学への留学説明会
16	9月16日	日本語・日本文化研修留学生修了式
17	9月28-29日	日本・ウズベキスタン学長会議
18	9月30日	10月期新入留学生オリエンテーション
19	11月6日	JICA 研修生受け入れ（現地視察）
20	11月14日	公州大学（韓国）との協定調印式
21	11月17日	日本語教育演習B（ブルネイ大学との日本語会話クラブ）
22	11月26日	見学旅行（滋賀）
23	12月1日	日本文化入門K（ミニ畳制作ワークショップ）
24	12月17日	第20回学長杯留学生による日本語スピーチコンテスト
25	12月22日	日本文化入門K（茶道体験）
26	1月18日	在大阪スイス領事館領事来訪
27	1月19日	日本文化入門K（和菓子作り体験）
28	1月20日	電子書籍『マイの和歌山大学留学2022』発行

29	1月26日	在名古屋トルコ総領事来訪
30	1月26日	日本語教育演習B（日本語模擬授業）
31	2月1日	東サラエボ大学表敬訪問
32	2月1日	「異文化コミュニケーション共同演習B」終了（ピナ・ヌサンタラ大学）
33	2月5日	「国際協力オンライン演習」終了（ガジヤマダ大学）
34	2月12日	ベトナム・ホーチミン師範大学「国際同窓ネットワークベトナム支部」発足
35	2月13日	ドンア大学との協定調印式
36	2月14日	ベトナム外交学院大学との協定調印式
37	2月14日	ハノイ貿易大学との協定調印式
38	2月15日	ハノイ大学との協定調印式
39	2月15日	フェニカ大学との協定調印式
40	2月21日	日本貿易振興機構(JETRO)との協定調印式
41	2月15-26日	「第10回タイ・プログラム」実施
42	2月18-22日	「ベトナム・プログラム」実施
43	3月27日	アラバエフ・キルギス国立大学表敬訪問

【日本学教育研究センター教職員一覧】（2023年3月31日 時点）

センター長

長友 文子 教授

副センター長

藤山 一郎 准教授 ※編集担当

安本 博司 准教授

松下 恵子 特任助教

【国際交流課】

課長 中元 一恵

係長 寺本 匠

篁 紘子

程 奈緒子

ジェイコブソン久美子

貴志 真帆

